

## 釧路地域で発見された土器

釧路地域で発見された土器の様式は、縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 500 年）から擦文時代（西暦 600～1200 年）にわたっており、この地域に数千年間人が定住してきたことを示しています。縄文時代最初期の土器片には、模様がないものと、表面に貝殻を押しつけて作った模様ものがあります。その後の縄文土器は、土に押しつけられた縄の文様を特徴としていました。

土器の形状は、縄文時代後期から続縄文時代にかけて多様になり、この時代からは皿や壺の破片が見つかっています。擦文時代の土器片はより薄くなり、表面はなめらかで光沢があります。11 世紀の土器には、擦文土器の形状に縄の文様を組み合わせたものがあります。これは、北海道北部の沿岸と樺太島の遺跡で発見された土器に典型的なものです。この様式の融合は、北海道東部の社会と、それよりさらに北にある社会との間に接触があったことを示しています。